



未来をつくる原動力！ 千歳青年会議所新年交礼会



一般社団法人千歳青年会議所(以下千歳J.C.)による新年交礼会が、1月20日、会員44人と来賓のJCOBや行政関係者ら123人を合わせた167人が集まり、A.N

Aクラウンプラザホテル千歳にて行われました。千歳J.C.は、1964年に創立され、20歳から40歳までの若手経営者らが在籍する団体です。地域振興や青少年育成

など、社会貢献事業を企画・実行しており、異業種交流の場となる側面もあります。

「奉仕」「修練」「友情」を三信条として、「過去への感謝と未来への希望の中に今がある」を今年のスローガンとして活動しています。

交礼会は青年会議所理念の唱和から始まり、今年新しく任命された千歳J.C.米田大樹理事長は「かつて挫折を乗り越えた時に支えてもらった経験から、ほかの誰かを助けたいと思うようになりました。未来を担う子どもたちへ、自分たちがどんな背中を見せているか。知識だけではなく、かに行動にうつせるか。それを実現させるには支える仲間や家族が大切で」とビデオレターという形式でメッセージを送りました。

来賓を代表し、横田隆一千歳市長が「子どもたちが未来に向かっていろいろな選択ができるようなまちづくりを、これからも一緒になって作っていきたいです。失敗や変化を恐れず、常にチャレンジし続けてください」とあいさつ。歓談の席では、若手経営者がこれからの千歳について語り合いました。

(編集 小西)

1月14日、釜めし いちえにて恵庭市建設業協会(宮内光則会長)による新年交礼会が開かれ、原田裕恵庭市長をはじめ、行政や経済界、地元建設業・各種企業団体の代表など53人が出席しました。



宮内会長は昨年を振り返り、年頭のあいさつをした後「以前の建設業の役割はインフラの整備や維持管理のみだと言われてきました。しかし、近年多発している大雨や地震など自然災害から市民を守るという大きな役割も担い、またその役割を遂行する機会も

増えてきています。そのとき、改めて建設業は地域になくてはならないものだと認識しました」と話し、「人手不足といわれている今日の社会ですが、これからも皆さまとともに協力しながら市と協会の発展にまい進してまいります」と決意表明

原田恵庭市長は「恵庭市のインフラを中心とした、まちづくりの担い手として精力的に取り組んでいたに感謝を申し上げます。今年4月から施行される第6期総合計画の事業内容には複合施

アレフと恵庭市教育委員会 包括連携協定締結



恵庭市で「えこりん村」やハンバーグレストラン「びつくりドンキー」の運営を手掛ける株式会社アレフ(札幌市、庄司大代表取締役社長、以下アレフ)と恵庭市教育委員会が包括連携協定を締結。締結式が1月15日に恵庭市役所で行われました。

同協定は、「地域の活性化および人材育成ならびに文化の振興に寄与すること」を目的に締結。えこりん村は修学旅行などの教育旅行者を年間約1万人受け入れており、今後も同教育委員会が所管する恵庭市郷土資料館の学芸員の知識を教育に活かし、教育旅行の受け入れ強化を行っていく予定です。

また、同郷土資料館の来館者数も増やす取り組みとしても連携し、重要文化財が出土された恵庭市の歴史や文化などを発信していくことで

アレフの庄司開作専務取締役は「今までも郷土資料館さんとの連携を部分的には行っていました。この締結を機に、手を取り合い、お互いの強みを活かし、より一層青少年の教育育成に寄与していきたいです。また、市外から来た子どもたちにも恵庭の魅力を伝えていけたらと思います」と話しました。岩淵隆同教育委員会教育長は「恵庭市にとってなじみのある『えこりん村』などを運営するアレフさんと連携協定を締結できたこと、心よりうれしく思っています。全国から恵庭に来られた方には郷土資料館にも足を運んでもらいたいです。いろいろなアイデアを出し合い、子どもたちに教育によい連携協定となればと思います」と語りました。

(編集 佐々木)

間違いは全部で8個です。答えは次週の「ちゃんと」で掲載します。一切クレームはお受けできません。ご了承ください。

